

そよ風

第8号

今治市立立花中学校

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

2年生では、先月に『渋染一揆』を学び、12月は『水平社宣言』から差別と闘った人達の生き方について学習しています。日本で最初の人権宣言である『水平社宣言』が出されて100年を迎えます。

～水平社宣言とは～

1922(大正11)年3月3日、京都市にある岡崎公会堂に部落差別に苦しむ人々が全国各地から集まり、差別からの解放と人間としての自由、平等の権利を自らの手で取り戻そうと創立した『全国水平社』の創立大会で読み上げられました。

『水平社』は、「人間は生まれながらにして平等な存在である」という理念から名付けられ、宣言の最後に書かれた「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉には、「人間を尊敬し、大切にしようことで差別はなくしていける」という願いが込められています。また、宣言の原文には、長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いとともに、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく生きていける社会の実現を願う気持ちが込められています。

(一部要約)

「全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。ここにわれわれが人間を尊敬することによって、自らを解放しようとする運動を起こしたのは当然である。われわれは、心から人生の熱と光を求めるものである。水平社はこうして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。」

<今、私たちができること>

水平社宣言から約100年後の今は、差別のない世の中になっているでしょうか。たしかに、様々な場面で人権について考える機会が増えています。しかし、SNS上での誹謗中傷、性のあり方についての差別や偏見、新型コロナに関する人権侵害など、新たな人権問題が発生しています。今は、多くの人が自由に意見を交わせる時代です。こうした時代だからこそ、『水平社宣言』に込められた当時の人々の願いに思いをはせ、全ての人の人権が尊重される豊かな社会をつかっていくことが必要なのではないでしょうか。



(滋賀県広報誌より抜粋)

<2年生が水平社について学んでいる様子>

